

令和7年12月 定例教育委員会（公開）

1 日 時 令和7年12月22日(月)13:30～

2 場 所 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室

3 出席者

教育長 : 河井 登志夫
委員 : 前田 哲雄
委員 : 谷口 なおこ
委員 : 中井 英子
委員 : 住川 英明

〔事務局〕

副教育長：徳高 雄一郎
次長兼教育総務課長：山名 常裕
次長兼学校教育課長：浅見 康陽
次長兼総合教育センター所長：狩野 司
校区審議室長：岡部 孝志
学校保健給食課長：蔵増 彩
文化財課長：佐々木 孝文
生涯学習・スポーツ課長：浜田 哲弘
中央図書館館長：中島 泉
学校教育課参事兼指導係長：福山 暁博
学校教育課参事：平戸 由美
教育総務課長補佐：前田 英樹

〔傍聴者〕 なし

4 会議次第

行事報告及び行事予定について

〔教育総務課〕P.3

【説明・協議事項】

(1) 学校計画訪問の総括について

〔学校教育課〕別冊

※説明・協議事項(1)は、鳥取市教育委員会会議規則第14条第1項に基づき、公開しないこととします。

【報告事項】

(1) 令和7年12月市議会定例会の附議案（追加提案分）について

〔教育総務課〕P.5

(2) 12月市議会定例会一般質問教育長・副教育長答弁要旨について

〔各課〕当日

配布

(3) やってみよう！で一week（11/1～11/4）のイベント実施状況について

〔学校教育課〕P.8

(4) 因幡国山陰道跡の国史跡指定について

〔文化財課〕P.11

(5) 擬宝珠橋高欄部の修繕について

〔文化財課〕P.15

- (6) 史跡鳥取城跡擬宝珠橋の復元 2025年度 土木学会デザイン賞
最優秀賞受賞について [文化財課] P. 16
- (7) 第3期鳥取市スポーツ推進計画について [生涯学習・スポーツ課] P. 17
- (8) 鳥取市民体育館ネーミングライツ公募の結果について [生涯学習・スポーツ課] P. 19
- (9) 第3期鳥取市図書館振興計画について [中央図書館] P. 20

【その他】

- (1) 次期定例教育委員会の開催について
[1月] 令和8年 1月30日(金) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室
[2月] 令和8年 2月26日(木) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室
- (2) 第3回総合教育会議
令和8年2月9日(月) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室

5 会議概要

行事報告及び行事予定について [教育総務課]

【説明・協議事項】

- (1) 学校計画訪問の総括について [学校教育課]
※説明・協議事項(1)は、鳥取市教育委員会会議規則第14条第1項に基づき、公開しないこととします。

【報告事項】

- (1) 令和7年12月市議会定例会の附議案(追加提案分)について
教育総務課長(資料に基づき説明する。)
学校教育課長(資料に基づき説明する。)

【質問】

(前田委員)
今後、フェンスは高くする必要はないでしょうか。

(学校教育課長)

フェンスは令和5年にすでに高くされており、その後の事故ということでした。5mだったものを8mに高くしています。ですので、これ以上高くするということは今は考えていません。学校ではサッカー等をする位置、ボールを使う位置をちょっと変えて、道路から遠いところでキックの練習等をするということで今対応しているところです。

(前田委員)
指導で防げる範囲ということですね。

- (2) 12月市議会定例会一般質問教育長・副教育長答弁要旨について
各課長(資料に基づき説明する。)

【質問】

(谷口委員)
通学路の点検のことで、歩道を歩いていて家の垣根がすごく出ているところがあって、たまに傘が当たることがあります。子どもは当たらないかもしれませんが、こうい

うことは、どこかに切ってくださいと言えるものなのでしょうか。

(副教育長)

正しい制度、仕組みを私も把握していないのですが、実際私の住んでいる町内でも同じようなところがありまして、それは学校に言わずに町内会で何とかしなければというような動きをしたことがあります。色々なやり方があると思いますし、もちろん通学路になっていて子どもたちが日々通るような場所でしたら、学校に報告されるのもいいのかなと思います。また地域の自治会でも自治会エリアを綺麗にするという取り組みがございいますので、色々な角度から考えられますが、一番大事なのは子どもの安全だと思います。

(谷口委員)

たまに枝が出ていて下がらないようにつかえが歩道に出ていることがあるのも完全にアウトなのかなとは思いますが、点検されていて意見が出ないからずっとそのままなののでしょうか。たまに家の垣根の実を取らないように歩道に何か紐を貼られていたりとか、手が届かないようにされていたりするのも色々なところで見ることがあるので、ああいうのも学校や地域に働きかけてしてもらった方がいいのでしょうか。歩道をロープで塞いでいるのはあんまりよくないなと思うんです。

(副教育長)

歩道を管理している自治体、県道なら県、市道なら市と、そこに問い合わせするのもいいですし、学校に言ってみて、学校が把握されてるかどうかということも大事なことでと思います。

(谷口委員)

ありがとうございました。

(住川委員)

確かに今色々なメディアがあって、新聞などはオールドメディアなんていう、ニューメディアに対して古臭いようなニュアンスで語られたりする場合がありますよね。ですけども確かにそういう点では、新聞や図書とか、そういった活字情報というのもすごく大事にしていかないといけないなとも私ももちろん思います。同時にそういうメディアごとの対応で考えていくとやはり大事なことをまた見失いそうな気がします。それはやはり情報活用というもっと広い見方で色々なメディアを取り扱うような、そういった情報教育の中で新聞を取り扱っていくというやり方であるべきじゃないかという感想を持つんですね。ですので、今回の答弁は答弁として、そういう点は今後どのように新聞との関わり、あるいはそういった広い意味での情報との関わりを考えておられるか、今のお考えだけでも結構ですので、お聞かせいただけたらなと思います。

(学校教育課長)

一番核になるのがやはり図書室、図書館になってくるとと思いますので、学校司書や司書教諭を中心にどんな情報を活用して、どの場面でそういうことを取り入れていくかというようなことをコーディネートしながら、教科の中に取り入れていくような取り組みは、これからもどの学校でも力を入れていきたいと考えているところです。

(中井委員)

私も新聞の活用についてっていうのが気になりまして、新聞は必ず取るように今のところ決められているということですか。

(学校教育課長)

文部科学省の方から一応目安として、小学校が2紙、中学校が3紙ということで示されています。

(中井委員)

子どもたちの学校の生活の中で図書館に行って新聞を手取る時間が忙しすぎてないのかなとちょっと心配しました。学校で読む時間がないのであれば、毎日それを手取る習慣づけというか、そういうようなところまで何か指導ができるといいのかなと思いました。

(学校教育課長)

新聞も図書室に置いているところもあれば、例えば子どもたちがよく通るようなスペースにおいて、誰もが目に触れるようなところで、子どもたちが読むきっかけになるような取り組みというのを各学校で意識しながら、どこに配置するかということも考えながらやっているというのが現状です。それから今は新聞を取っていない家も多いので、学校では読むけど家はないということもあります。必ず全員が読むのはなかなか難しいところではあるんですけども、先ほど言っていたように、様々な情報を取り入れながら、自分の考えを深めていったり、学びに生かしていったりっていうことができるような環境というのは引き続き、新聞も含めて作っていきたいなと思っています。

(前田委員)

PTAのことなんですが任意団体ですので、介入はなかなか難しいのもよくわかります。本来はあって活性化されていたら、今まではいいことがあったということだと思います。介入はできないんだけど、PTAの組織がどうなのかっていうようなことを考えるときに、校長会ですとかPTA協議会とか、市も一緒に入って話をして何かいい方法を一緒に探していくような。PTAが全てじゃないと思うんですが、何かそれに代わるような組織があればいいとは思いますが、何かがないとやはり今の時代、学校だけでは難しいかと。なくされた学校もなかなか保護者に集まっていたくのが難しいようなことを言っておられました。なくなっていくのを黙って見ているのはちょっとどうなのかと。自治会の加入率が下がってきているのと同じことだと思います。だんだんこういう方向で割合が減っていくっていうのが今後どうなるんだろうなということを危惧せずにおれませんか。質問ではないんですけど、何かそういったような話題というか、そういう方向で集まられるってなったときに、市教委もできる範囲の支援といいますか、話し合いへの参加っていうのはぜひ続けていただけたらなという要望です。

(副教育長)

PTAのこれからの状況を本当に心配をしております。色々な考え方がありまして、でも学校にとってPTAは大事な組織だと思いますので、引き続き特に今困っている学校にしっかり状況を確認していきたいと思います。PTA会費がないだけでも全然学校の運営が変わってくると思いますので、課題意識はずっと持っております。

(教育長)

それぞれ単体のPTAの話がメインだったと思いますが、小学校のPTAの連合会、中学校のPTA連合会というのがあります。市教委との連携という部分では、つい先週、

小学校の PTA 連合会と中学校の PTA 連合会がともに市教委に対して、要望や色々な意見交換をする場も設けていただいて意見交換もしています。また小中合同での PTA の連合会の会員での研修会もされていますし、私もそういうところ出さしていただいて、色々現状なり、お話を聞かせていただいております。そして連合会自体もやはり今のそれぞれの単 P での色々な動きも捉えていますから、これからどういうやり方がいいのか組織的なことも考えながら、一緒に考えておられるというところもあります。当然、教育委員会も連携しながらやっているというのが現状です。ただなくなってしまうとなかなか大変だということは、学校訪問でも感じられたところがあるかもしれません。その辺は同じ認識をしております。またご意見があればよろしくお願ひしたいと思っております。

(前田委員)

すぐ隣の県で PTA がなくなったということがありました。岡山がその後どうなったのかちょっとよく分かってないんですけど、かなり影響があるんじゃないかと思って心配してます。

(3) やってみよう！で一week (11/1～11/4) のイベント実施状況について
学校教育課長 (資料に基づき説明する。)

【質問】

(谷口委員)

保護者の多くがこの制度はもうやめてほしいというご意見を持っておられて、やはり親子で体験する日なのか、子どもだけで体験する日なのか、その辺がちょっと曖昧で、子どもだけの体験でいいなら積極的に休んで欲しいということではなくて、学校でやってほしいと。休みになると給食がないから仕事に出ないといけないのに子ども何人かのお昼ご飯を用意して子どもだけで過ごさせるとか、何時になったらそこに行きなさいよと言っても行ってるかどうか確認を取るのが帰ってからという、中途半端なんじゃないかなという意見はすごくたくさんあるんです。学校の先生のご意見も今回見させていただいて、先生方は有給をだいぶ取られているようですが、やはり一般の企業とかだと取りにくいというお母さんお父さんは 7 割おられて、今後進めていく上で、そこを無視しては進めていけないと思います。来年から 2 日になるということですが、そのあたりはどういった方向で行かれるのでしょうか。

(学校教育課長)

方向性は変わらず、保護者や地域の方と一緒に体験をするということです。やはり前提は保護者さんと一緒に、それが難しければ、地域の中で子どもたちが様々な体験をするっていう方向は変わらないです。学校でもできるんですけども、やはり何でも学校ではなくて子どもたちをみんなで育てていくっていう風土を作るっていうのがこの制度の目的ですので、保護者の方も意識を持っていただきたいですし、地域の方にも何でもおまかせではなくて地域で子どもたちを育てていくっていう雰囲気を作っていきたいと思っています。当然いろんな勤務形態があるので、全ての保護者の方がお休みを取れるとは思っていません。そういう方には先ほど言ったように、地域の中で子どもたちを見るようなイベントや取り組みをしていただくとか、それから今回もありましたけど企業自体が子どもたちを受け入れたり、あるいは保護者の職場参観ではないですけども、そういうような形で一緒に子どもたちがキャリア教育にも繋がるような取り組みをしていただくというようなことを今後は意識しながら、企業側にも働きかけていきたいと思っています。なかなか休んでくださいばかりは難しいという現状もありますので、できる形で色々な場を作っていただくという雰囲気は盛り上げていきたいなと考えていま

す。

(谷口委員)

最初の4月の参観日の後の懇談会とかで、この理念みたいなのをもっと多くの保護者に伝えられるべきかと思います。もしかしたら今も伝えられてるかもしれないですが、あまり保護者さんの心に届いてないという気がします。理想を持ってこういうふうに地域で育てたいという思いはすごくよくわかります。でも実際、結果的に伴ってないっていうところをどのようにしていくか、そこにももうちょっと目を向けていただきたいなと思うんです。子どもだけで残していく、休めない保護者の後ろめたい気持ちとか、心配な気持ちとかも、すごくよくわかるので、いい具合にお互いに歩み寄れる着地点みたいなのがないのかなっていうところもすごく思っています。どっちもが一方的な感じで、教育委員会のやり方と保護者さんからの意見っていうのが、資料で見るとお互いに向き合ってるみたいに見えるんですけど、実際はあまり向き合っていないのかなと。お互いに別の道、意見を出してるような気がします。なので、そこが本当に向き合いえるような、何かそういう場を持つとか、難しいんですが、もう少し保護者の意見を、アンケートじゃなくて生の声で聞いていただきたいと思いますし、その場で教育委員会の方針とかも伝えていただけたら、そこから納得した保護者さんが広めてくださるとか、口コミとかそういうのも期待して、そういう場を持っていただきたいなと思います。

(学校教育課長)

またどのように声を拾っていくか、どういうふうにしたらより良くなるかというのは引き続き今年もこの「やってみよう！でー」の検討委員会を設けましたが、そのような形で外部の方の意見も聞きながら、進めていきたいと思っています。継続するのが大事なのかなと思っていて、夏休みに対して保護者の方が夏休み早く終わってほしいという気持ちもよくわかるんですけども、夏休みはもう誰も文句を言わないっていうところがあります。「やってみよう！でー」はたくさんご意見をいただきますので、これが当たり前になっていくぐらいまでは継続していくのと併せてこういう意図でこの日を設けているってことも周知しながら、当たり前になるような、そして子どもたちをみんながこの日はしっかり見ていって、体験させてやろうってなるように、我々もやり方を考えていきたいと思っています。

(住川委員)

先ほどあったようになかなか休みが取れないということでもありますとか、その受け皿のことが非常に大きいのかなというふうに常々思っています。先ほどお話の中で、公民館の主催事業が増えたというお話があって、それはこの地域で育むということを考えたときに非常にいい傾向なんだろうなと思いました。お聞きしたい1つは公民館主催事業として、そういった受け皿を用意することについて、何か働きかけをされて、その結果としてこういう状況ができたのか、そうでないのかっていうことがあります。あと、レクリエーションはやりたいんだけど、なかなかそのやり方がわからない。特にシルバーと若葉というんですかね、年寄りと若い子どもたちが一緒に何かできるようなそういったレクリエーションの種類でありますとかそういうやり方がわからなくてそこに踏み出せない公民館の方もおられるかもしれません。そういったレクリエーションについて相談を受けるようなサービスっていうんでしょうか、そういうことがあるとまた地域も取り組みやすいのかなと思ったりするんですけども、その点について何か今後新しい働きかけとか、どんなことをお考えかっていう点をお聞きできたらと思います。

(前田委員)

関連して、地域で子どもを育てるということは絶対必要なもので、何とかその機運を高めていく上で、例えばコミュニティスクールだとか地域学校協働活動などがこういったことに目を向けてくれたらいいかと思います。支えられている、無理やりやっているというのではなくて、Win-Win な関係になって、やはりこれ必要だと感じられたら、ずいぶん受け止め方が違ってくると思います。私が住んでいる村の老人クラブはすごく元気が良くて、夏休みは子どもたちと一緒にラジオ体操を毎日やっておられます。1 日でも出席した者にはご褒美があるということで、小学生は喜んで年寄りと一緒にやっていました。ああやって地域みんなで見守って子どもを育てているんだなって、親もいい顔して参加していて、一緒にマラソンしたりしています。これは 1 つの縮図だなと思いながら見たりしていますが、元々今あるような、そういう組織を使って行くのが早道かなと思います。何がいいのかわかりませんが、思いつくのは地域学校協働活動で話題にしてもらったり、コミュニティスクールでも前向きに考えてもらったりと、なにか議題の 1 つにしてもらえるような、そういった働きかけもあってもいいのかなと思いました。

(学校教育課長)

ありがとうございます。公民館への働きかけは、この制度を作る前に公民館連合会の方にも趣旨を説明させていただいて、ぜひ地域の方で子どもたちが体験できるような場であるとか、一緒に子どもたちを育てていく雰囲気を作っていきたいということとは話をさせていただきました。それを受けて様々な意識を持ってやっていただいているなと思っております。それからレクリエーションのやり方であるとかそういう助言、相談のサービスというのはなかなかこちらから提供できていませんが、公民館であるとかあるいは子どもたちを預かっている児童クラブは外部機関、例えば自然の家であるとかアストロパークであるとかそういうところと連携しながら、取り組みをしておられるところもありますので、何かこういう繋ぎというか情報提供というのがこちらもできないかなというのは、引き続き考えていきたいと思っております。

それから、コミスク、地域学校協働活動の活用というのは本当に一番有効な、地元の方の力を借りるという意味ではいいのかなと思いますので、そういうところとの協力体制っていうのも、引き続き考えていきたいと思っております。先ほど谷口委員さんからもありましたが、教育委員会は発信しているが学校独自で発信しているかどうかというのを、そこも確認しながら、そこが十分でなければ学校も意識を持って地域の方に働きかけたり、協力を仰いだりすることができるとより充実した活動ができるかと思うので、その辺は検討しております。

(4) 因幡国山陰道跡の国史跡指定について

文化財課長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(前田委員)

山陰道のこれは保存されてこれからも残されるもののでしょうか。埋められてしまっているのでしょうか。

(文化財課長)

実際には埋まっていて見えないものではありますけれども、山として歩くことが可能ですので、折板ですとかそういったもので今後対応を考えていきたいと思っております。

(前田委員)

13 ページの写真 2 枚あるようなものは、今はどうなっていますか。

(文化財課長)

これはもう埋め戻されております。ただ青谷上寺地史跡公園内で山陰道を再現するような計画がありますので、そちらの方で概ねこういう形なのかなというのは見ていただけるんじゃないかと思います。

(谷口委員)

分からないので聞きたいんですが、埋め戻されたということでしたが、せっかく掘って発見したのに、また同じ状況で埋め戻されるのはなぜでしょうか。

(文化財課長)

発掘調査というのは埋まっている状態で元の遺構を検出するんですけども、埋まっているので保存ができている状態で、掘ってしまうと直接空気にさらされたり雨水にさらされたりしますので遺跡としては破壊されてしまいます。整備をして上を固めるであるとか何らかの対応をしないと開けたままにはできないので、ということです。実際掘ったのは文化庁ですけども、遺跡としてはずっと続いて残っているわけですので、こういったものとしては、一旦埋め戻して今後どう対応するかということを今考えてるところです。

(5) 擬宝珠橋高欄部の修繕について

文化財課長 (資料に基づき説明する。)

(6) 史跡鳥取城跡擬宝珠橋の復元 2025年度 土木学会デザイン賞最優秀賞受賞について
文化財課長 (資料に基づき説明する。)

【質問】

(中井委員)

擬宝珠橋が復元されたのは結構前になると思うんですけども、今回受賞されたっていうのはどういう経緯でしょうか。

(文化財課長)

土木学会自体の賞がこれが3つ目でして、構造等に当たる田中賞というものもあわせてなんですけれども、景観デザインに関しては審査が今年になったということになります。

(中井委員)

その景観ということでは、中ノ御門や渡櫓門も復元されていますので、そこら辺一帯で取られたらよかったんじゃないかと思いました。そういうところも一帯では取れなかったんでしょうか。

(文化財課長)

これは土木学会の賞でありまして、建築ではありませんでした。

(中井委員)

景観的に一体で取れたらいいのかなと思ったので質問しました。ありがとうございます。

(7) 第3期鳥取市スポーツ推進計画について

生涯学習・スポーツ課長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(住川委員)

基本方針の3のところに持続可能なスポーツ人材育成環境整備ということで、文言を変えられて、どんどん優秀な人をつまみ上げるっていう要請ではなくて、もっとう、広くいろんな方にご参加していただけるというようなスポーツの事業をという、そういう意味合いで書き換えられたっていう言葉もよくわかりましたので、すごく嬉しいことだと思っております。競技人口、色々な方がおられると思うんですけども、それを増やしていくため、結局どんなことが必要なんだろうかと私なりに考えてみますと、若い頃にあるスポーツをちょっとかじったことがあると、ずいぶん年をとってしまったがもう一度そういう場があれば出かけてみたいなというふうに思われる、ずっと競技者としてやってこられたというよりも、今後の健康のためとか、そういった人との繋がりのために、思い切って一歩踏み出したいなという方がおそらくたくさんおられるのではないかと思います。そういう方がグループに入ろうとするわけですが、仲良しグループが既に固まっていてなかなか新規に入るのが難しかったり、情報がなくて受け入れてもらえるんだろうとか、ちょっと年をとって耳が不自由になってきたんだけど私でも大丈夫だろうか、というふうなお悩みを抱えている方がおられるかもしれないと思います。そういうときに何かどこを頼りにして、どういうふうに情報を得たらいいのか、と考えると思うんですが、その点で何かお考えとかご準備のあることがあればお聞きしたいなというふうに思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

準備としては特にこれっていう1つのものはないんですけども、先ほど言われたように色々なチャンネルでニーズがあると思いますので、そういったところで根気強くといいますか、少しずつ情報を色々なところで出していくという必要があるのかなと思います。

(住川委員)

市民体育祭などでも非常に盛んにやっておられるのはわかるんですけど、なかなか思い切って入れないっていう状況がやはりあるのではないかと思います。例えばそういうサークルの活動を広報の中でも取り上げていただいたりとか、そういう開いているサークルについては、連絡先がある程度わかったりとか、何かそういうレファレンスみたいなものがあるとありがたいなと思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

検討していきたいと思います。

(教育長)

全市的な取りまとめもあるでしょうし、地元の地域のことで言えば公民館活動の中でのより身近なそういう活動をしておられるようなこともありますから、現在は所管が市長部局となっていますが協働推進課ともしっかり連携をとりながら、公民館だよりとか色々な情報発信というか、そういうところでも色々なチャンネルというか、受け皿というのをご紹介することが必要かと思いますので、連携をとりながらということで思っております。

(8) 鳥取市民体育館ネーミングライツ公募の結果について
生涯学習・スポーツ課長（資料に基づき説明する。）

(9) 第3期鳥取市図書館振興計画について
中央図書館長（資料に基づき説明する。）

【質問】

(中井委員)

学生が勉強する場所としては、図書館を使いたいというときがあると思いますが、図書館としてはどういう受け止めですか。そういったことは明記されておりましたが。

(中央図書館長)

図書館の運営としては書いておりませんが、今学習コーナーとして48席設けています。テスト期間等は満席で断ることもあるぐらい、みなさんに使っていただいています。こちらは振興計画には書いておりませんが、引き続き運営していこうと思います。

【その他】

(1) 次期定例教育委員会の開催について

[1月] 令和8年 1月30日(金) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室

[2月] 令和8年 2月26日(木) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

(2) 第3回総合教育会議

令和8年2月9日(月) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎7階 第2会議室

閉会 15:10